

令和元(2019)年度



# 教育イベント報告書



かながわ人づくり推進ネットワーク



# 目次

I. かながわ教育ビジョンについて	1
II. 教育イベント実施報告	4
(1) かながわ人づくりコラボ2019	5
(2) ネットワークによるオススメ教育イベント	9
(3) かながわ人づくり推進ネットワーク参加団体（民間団体）	21
(4) 市町村教育委員会・県教育委員会	22
(5) 県立学校	35
（コラム）企業等における家庭教育支援の取組み	39
III. かながわ人づくり推進ネットワークについて	41

※ 本報告書はネットワーク参加団体より報告いただいた教育イベントを集約し、人づくり推進ネットワーク協力団体が中心となって編集したものです。

# I. かながわ教育ビジョンについて



全体版のダウンロードはホームページから

( <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/u5t/cnt/f4816/p332573.html> )

## 概要

### かながわ教育ビジョンとは

- 「かながわ教育ビジョン」は、フォーラムやワークショップ等を通じて、多くの県民の皆様と、幅広く継続的に議論を展開しながら、平成 19 年 8 月に策定された、神奈川県教育推進の総合的な指針です。
- 教育ビジョンでは、社会状況が変化する中、自分らしさを大切に、自立して、たくましく生き抜くことができる、自己肯定感を基盤とした生涯にわたる「自分づくり」を重視しています。
- 神奈川県は、こうした自立した一人の人間をめざす「自分づくり」に加え、社会の構成員としてよりよい社会づくりにかかわる総合的な力「人間力」を身に付けさせる「人づくり」を行っています。(基本理念)
- 更に、「人間力」の内容を、まわりの人との関係、社会との関係、自己の成長の姿という視点から「めざすべき人間力像」に整理しました。(教育目標)

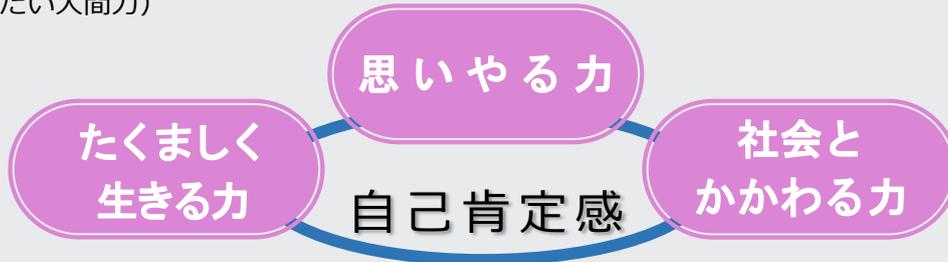
## 基本理念

未来を拓（ひら）く・創る・生きる

人間力あふれる かながわの人づくり

## 教育目標

(身に付けたい人間力)



『心ふれあう しなやかな 人づくり』

## 人づくりの視点について（教育ビジョン第3章より）

1 (乳・幼児期)  
健全な心身と生活の基礎を培健う段階



2 (児童・青年期)  
自分らしさを探求する段階



4 (円熟期)  
豊かな人生を探求する円熟の段階

3 (成人期)  
社会的・経済的に自立する段階

### ※「つむぐ おりなす」

「つむぐ おりなす」には、次代を担う子どもたち一人ひとりの個性やよさを「つむぐ」ように大切に育てるため、まわりの大人たちが様々に「おりなす」ようにかかわり合っていこうという願いが込められています。

## 〔県としての〕重点的な取組みについて（教育ビジョン第 5 章より）

### I. 生涯学習社会における人づくり

取組例

- ◆人生 100 歳時代における生涯学習への支援
- ◆キャリア教育、シチズンシップ教育の推進
- ◆学校での防災教育の推進

### II. 共生社会づくりにかかわる人づくり

取組例

- ◆インクルーシブ教育の更なる推進
- ◆医療的ケアの充実

### III. 学びを通じた地域の教育力の向上

取組例

- ◆社会教育施設等の施設開放の充実
- ◆地域学校協働活動の推進
- ◆コミュニティ・スクールの充実

### IV. 子育て・家庭教育への支援

取組例

- ◆放課後子ども教室、土曜日の教育活動の推進
- ◆ファミリー・コミュニケーション運動の展開

### V. 学び高め合う学校教育

取組例

- ◆E S D（持続可能な社会開発のための教育）の推進
- ◆グローバル化や情報化に対応した教育
- ◆キャリア教育・職業教育の充実

### VI. 意欲と指導力のある教職員の確保・育成と活力と魅力にあふれた学校づくり

取組例

- ◆教員研修の充実
- ◆中学校夜間学級設置に係る支援
- ◆学校評価等を活用した学校経営の推進
- ◆県立高校改革の推進

### VII. 県立学校の教育環境の改善

取組例

- ◆県立学校の校舎等の耐震・老朽化対策の推進
- ◆教員の働き方改革の推進

### VIII. 文化芸術・スポーツの振興

取組例

- ◆未病改善の取組みの推進
- ◆社会教育施設等での展覧会や講座の充実

## 教育ビジョンの推進について（教育ビジョン第 6 章より）

- 教育ビジョンの推進にあたっては、県としての取組みだけではなく、学校や市町村、家庭や地域、企業やNPOなど、様々な方々と、共感・共有に基づく、「協働・連携による人づくり」を進めることを大切にしています。

(具体的には)

- 教育ビジョンで掲げた理念の実現に向け、「かながわ教育月間」を設定
- 教育ビジョンの推進状況をもとに、県民との検証や課題解決のための方向性を議論するなど、県民参加の「かながわ教育月間フォーラム」や「かながわ人づくりコラボ」の開催
- 学校や家庭、地域などで、様々な主体と教育ビジョンを共有し、効果的な取組みが進められるよう、継続的に協議を行う場として「かながわ人づくり推進ネットワーク」を設置

## Ⅱ. 教育イベント実施報告



▲ 「かながわ人づくりコラボ 2019」会場にて  
かもえもんと SDGs ダーツ

かながわ教育月間に関わる取組みの詳細は県教育委員会ホームページをご覧ください。  
( [https://www.pref.kanagawa.jp/docs/u5t/gekkan/gekkan\\_top.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/u5t/gekkan/gekkan_top.html) )

### 概要

#### 掲載イベントについて

##### ■ かながわ人づくりコラボ 2019

かながわ人づくり推進ネットワークが県教育委員会と共催で開催している教育イベントです。

##### ■ ネットワークによるオススメ教育イベント

幹事・協力団体代表者が参加した教育イベントの中で皆様に紹介したいものです。

##### ■ 各種団体によるイベント

かながわ人づくり推進ネットワーク参加団体（民間団体）、市町村教育委員会・県教育委員会、県立学校から報告いただいた教育イベントです。

##### ■ （コラム）企業等における家庭教育支援の取組み

## (1) かながわ人づくりコラボ2019

「かながわ人づくりコラボ」は「かながわ教育ビジョン」の理念の実現に向け、県民の皆様との協働・連携を進めるため、これからの人づくりについて皆で考える場として「かながわ教育月間」にあわせて開催する教育イベントです。

### 実施概要

主 催 神奈川県教育委員会  
かながわ人づくり推進ネットワーク  
場 所 横浜市西公会堂  
開催日時 11月2日(土) 13:00~16:00  
参加者数 306名



▲ ボッチャ体験



司会の様子▲

(県立小田原東高等学校放送部黒澤さん、尾野さん)

### 教育イベント概要

#### テーマ

スポーツを通して個性を認め合う人づくり ~学校現場の活動から~

#### 開催内容(プログラム)

##### (1) 開会のあいさつ



(神奈川県教育委員会 教育長 桐谷 次郎)

開会の挨拶として、「かながわ教育ビジョン」の理念に基づく「心ふれあう しなやかな 人づくり」の取組、県民との教育論議の機会である本コラボの趣旨とテーマ設定の視点やかながわ教育ビジョン一部改定の話があった。

また、「ともに生きる社会かながわ憲章」の取組について、話があった。

##### (2) 講演「オリンピックを目指して得られたもの~五輪メダリストからのメッセージ~」

(日本体育大学教授 東京都体育協会会長 山本 博)



現役のアーチェリー選手として 45 年間続けている選手生活と、オリンピックでメダル獲得をめざす中での経験及び高校教諭から大学教授の現在の立場から教育者の視点での経験を基に講演をすすめて行く。

アーチェリーを始めたのは中学1年生からで、大学3年生の時にはじめて出場したロサンゼルスオリンピックで銅メダルを獲得した。57 歳になる現在においても、東京オリンピック出場に向けて選手生活を続けており、11月12日から14日にかけて行われる1次選考会に参加できる16名にエントリーされた。本日も午前中は練習をしてきておりこの後、練習場に戻り練習を再開する。

午前中はきつめの練習をしてきており、練習を再開する頃には、体もよい状態になっていると思う。これも、45年間の競技生活で培った経験からである。

オリンピックという世界の頂点をめざしているときに、勉強の頂点をめざさないということは、あまりにも都合の良い話である。スポーツでトップをめざすならば学業でもトップをめざすハートを持たなければならない。日本は文武両道という言葉があるが、文武分業になっている。アメリカでは、トップレベルの大学からオリンピック選手を多く輩出している。学業とスポーツの両立を国の方針として進めてきている経緯がある。日本でも、大学スポーツ協会ができ、大学生の勉学とスポーツの両立をサポートする体制ができた。

また、4年に1度開催されるオリンピックは選手としてはとても厳しい長さである。そのため、メダルをめざして必死に取り組み、挫折も大きく涙を流す選手も多い。オリンピックに出場する選手は、誰にも負けない綿密な準備とその競技のことを知り尽くしてなければいけない。私はアーチェリーのことは何でも答えられる自負がある。そして、綿密な準備はもちろんのこと、競技本番のときに、どれだけ大胆になれるかがポイントである。準備ができていない人の大胆は無謀になるだけである。

主体的に競技に向かう気持ちを見極めることが大事である。常に選手として見極めるようにしている。勉強もスポーツも目標を達成したらそこでストップしてしまうのではなく、何のためにやっているのか、自ら取り組む目的が重要であり、あるステージの満足を得ても次に進んでいくことが大事だ。私が競技を続けている目的は、未だにできないことをできるようにしたいからである。だからアーチェリーを続けている。そうしたことから、体育の教員として、子どもたちには、できないことができるようになる経験を提供すること、かっこよく言えば、不可能を可能にする経験をさせることが大事だと思っている。そのためにも、バランスよくより多くのことに挑戦してほしい。

#### (会場からの質問①)

一人ひとり価値観や個性が違う中、自分のベストをめざしたり自分が幸せだなと感じていればよいと思うのだが、なぜ一番をめざす必要があるのか。

#### (回答①)

頂点をめざしている道のりを経験していく中で、他者に自分の行動を通して何かを伝えることができ、他者との比較を超越できる。7番8番では、他者との比較になる。人の能力は無限であり、一番というのは常に永遠である。どのスポーツも学問も将来にわたっても、今が最高かどうかはまったく保証されるものではないので、頂点をめざし続けることが大事だと思う



#### (会場からの質問②)

子どもが山本先生の講演を聞きたくて来た。保護者が代わりに質問をする。子どもがアーチェリーをしているが、長く怪我をせず続けるためにはどうしたらよいか。小学校3年生にもわかるように教えてほしい。

#### (回答②)

道具が体に合っているものかどうかはまず重要。またアーチェリーは、左と右の腕の使い方が違う。人間の体は左右対称なので子どもの頃に、アーチェリーの他、かけっこや水泳なども並行してやると怪我をする可能性が低くなる。あと5分でも10分でも勉強を行うこと。そして得意なことをがんばること。日本は、どちらかというとな得意なことを頑張らせるが、得意なことをがんばることによって、辛いことも取り組もうという意欲がでてくる。

### (3) かながわ教育ビジョン一部改定について

(神奈川県教育委員会 教育局長 田中 和久)



国の「第3期教育振興基本計画」の閣議決定や、本県の総合計画である「グランドデザイン第3期実施計画」の策定などを踏まえ、かながわ人づくり推進ネットワークからの提言も参考に、令和元年10月に一部改定した「かながわ教育ビジョン」について、第5章「重点的な取組み」を中心に、その概要の説明を行った。

### (4) 教育論議（実践紹介を含む）

#### ①実践紹介（県立保土ヶ谷養護学校 教頭 井上 浩子、教諭 相川 由宇）



近隣学校（権太坂小学校、境木中学校、光陵高校）とのスポーツを通じた交流について井上教頭より発表。あわせて、4年目の取組であるパラスポーツプロジェクトのプロジェクトリーダーの相川教諭より、プロジェクトイベントの取組内容についてスライド及び映像を使用し発表を行った。

#### ②実践紹介（県立秦野総合高等学校 教諭 盛 健志）



総合学科2年生、3年生の芸術スポーツ系列科目「スポーツマネジメント理論Ⅰ・Ⅱ」「スポーツマネジメント実習Ⅰ・Ⅱ」の授業で生徒が企画・運営やボランティアとして参加するスポーツイベント（南が丘小学校、秦野市内特別支援級の児童・生徒、秦野市高齢者対象のイベント等）の取組についてスライドを使用し発表を行った。

#### ③教育論議「スポーツを通して個性を認め合う人づくり～学校現場の活動から～」

「スポーツを通して個性を認め合う人づくり～学校現場の活動から～」をテーマに、具体的な提案や解決の方策について、実践紹介やパネリストの課題提起をもとに教育論議が行われた。

#### (主な意見および感想)

- 山本氏の講演の中で「出来るということはいろんなことができる、できるようになっている、喜びを実感することなのだ。」という話があったが、2校の実践紹介を聞いてこの話のことを感じた。
- 共生社会という視点では、スポーツをツールに交流するというのは比較的入りやすいと感じた。また、ポッチャは重度の障がい者にもできるスポーツであり、初心者でも取り組みやすく、ライフスポーツとして継続できるメリットがある。
- 秦野総合高校は、再編・統合前の秦野南が丘高校の時、すでに近隣学校や市と連携・協力ができていたが、それがうまく現在にも繋がっていると思った。



- 保土ヶ谷養護学校の周りは、もともと恵まれた交流環境であり、小学校、中学校、高校があるという利点を今後も生かしていきたい。4年間の取組を、終わらせるわけにはいかないと思っている。また、オリンピック開催に関係なく、共生社会の実現に向けて、今後進めていく必要性を感じている。また、未就学児にもパラスポーツに参加することを広げたい。



- 授業交流では、あまり光陵高校の生徒とは話せなかったが、もっとスポーツ交流やイベントを増やしたら会話などが弾むので、こうした取組を増やしていった方が良いと思う。
- スポーツを通しての交流事業の難しさは、なるべく生徒に任せなければならない。また、任せ方が重要であり、教員がどれくらいの範囲でサポートし、できる限り生徒を信頼して任せることがとても重要だと思う。その線引きの難しさを感じている。そうした中であっても、一番大変なのは、任された生徒の側だと思う。自分たちでイベントを作り上げていく過程で責任を持ってどれだけ主体的に取り組んでいけるかが重要だと思う。

(今後に向けて)

- 共生社会の実現の一環として授業で行ったが、スポーツは地域交流にとっても適していると思う。人間関係を社会的なかかわりとするのであれば、そういう授業交流を通じて、何か一つ大きなものを、一緒に協力しながら作る時間は重要である。さまざまな会話をし、一つのものを作り上げる時間や作りあげた時の場の雰囲気などが、より意味のあるものになると授業交流を通じて感じた。
- スポーツを通して色々なことに気づいてほしい。実践紹介にあったが、「気づく」ということは、教育界では大事だと思った。県教育委員会として子どもたちが、社会とかかわる中で思いやる力を育ててほしいと思う。また、こうした経験を通して自己肯定感も育ててほしい。
- スポーツイベントを通して、子どもたちが、社会に参加するきっかけになるのではないか。学校の中だけではなくて、地域や学校とのつながりを築きながら、また違いというものを気づきながら、それをお互いに尊重し合いながら、スポーツ交流をすすめてほしい。神奈川県が進めている共生社会づくりにもつながる。

## (5) 閉会のあいさつ

(かながわ人づくり推進ネットワーク 幹事長 内藤 昌孝)



閉会のことばとして、山本氏の講演では、競技生活 46 年において三元号（昭和、平成、令和）でメダルを獲得したいという考えのもとで挑んでおり、目標に達するために自己分析をし、綿密な準備をされている。競技生活の中で山本氏の哲学が生み出され、さまざまな人に通じる理念である。

教育論議では、スポーツの可能性や理念の話、そしてスポーツによる充実感、達成感それから負けるときの悔しさ、こういうことも大事であるとの話があった。

また、かながわ教育ビジョン一部改定に掲げた理念の実現に向け県教育委員会と、かながわ人づくり推進ネットワークが両輪となって、この人づくりコラボの場を活用しながら、県民の皆様と共に共感、協働、連携をはかりたいとの話があった。

## (2) ネットワークによるオススの教育イベント①

### 1 令和元年度 第1回市民公開講座

- 【演 題】** 健康を維持する『ホルモン』  
**【講 師】** 漢方薬学科 薬品反応学研究室  
教授 波多江 典之 (はたえ のりゆき)  
**【期 日】** 令和元年10月5日(土)  
**【会 場】** 横浜薬科大学 講義室  
**【内 容】**



健康を維持する「ホルモン」について、最初にホルモンとは何か、次いでホルモンが関与する病気とその治療薬について、骨粗鬆症を例に講演いたしました。

住んでいる場所や地域によって、ヒトを取り巻く環境は様々に変化します。神奈川県庁所在地である横浜市では、2018年の最高気温が、36度を超えた猛暑日もあれば、冬には5度にも満たない日もありました。外気温など、環境の変化に適応するためにヒトが持っている仕組みの一つがホルモンです。ホルモンとは、ヒトの身体のなかで多くの機能を制御している生理活性物質の総称です。ホルモンには、体温を調節するホルモンや、血糖値を調節するホルモン、体内の水分量を調節するホルモンなど、さまざまなものがあります。

これらホルモンは、全身に運ばれて作用するため、生命活動の根幹に関わる機能の制御に多く用いられます。このため、適切な量のホルモンが産生されると健康は維持されますが、ホルモンバランスが崩れると病気を発症しやすくなります。健康維持において、ホルモンは不可欠な物質の一つといえます。

関節リウマチや全身性エリテマトーデス (SLE)、骨粗鬆症など、過剰な免疫応答を引き起こす自己免疫疾患は、女性に発症しやすい病気であることが知られています。このため、これらの病気には、女性ホルモンの関与が考えられています。中でも、骨粗鬆症は、閉経後の女性に多く診られる病気です。ヒトの骨は、骨の破壊と形成が絶え間なく繰り返されており、常に新しい骨に造りかえられています。女性ホルモンは、この骨の新生に関与いたします。閉経により、女性ホルモンの量が減少すると、骨の破壊が過剰になるため、骨粗鬆症を発症しやすくなります。そこで、女性ホルモンのような作用をもつ骨粗鬆症のお薬が開発されました。

健康維持に欠かせないホルモンは、病気の治療にも多く用いられています。これらホルモン関連のお薬は、強力な効能が期待できますが、誤った使い方をすると、人体に有害となる「諸刃の剣」的に作用します。

講演後の質疑応答では、他のお薬にも共通することですが、医師や薬剤師と相談して、適切に服用することの重要性について説明いたしました。



講師 波多江教授



参加者の皆さん



質疑応答の様子

## 2 横浜薬科大学の主な教育イベント

### 【市民公開講座】

市民の皆さんの健康の維持・増進を目的に身近な「医療」「薬」「食」に関する講座を開講しています。

開始年度：2006年度

対象：一般の方

実績（2019年12月の時点）

：累計37回、延べ約5700人が参加

テーマ例：～食の安全・安心～

～風邪と漢方薬～

～個別化医療ってなに？～



### 【歩こう会】

地域住民の健康の維持・増進及び本学学生との相互交流を目的に大学周辺をウォーキングしています。

開始年度：2009年度

対象：一般の方

実績（2019年12月の時点）

：累計119回、延べ約6000人が参加

コース例：上級コース 約10km

俣野別邸庭園往復

中級コース 約7km

境川遊水地公園往復

初級コース 約2km

俣野公園周回



## 3 横浜薬科大学の沿革

本学は、〈個性の伸展による人生練磨〉を建学の精神とし、明治維新の横浜港の開港を機に、薬学が発展してきたその地に平成18年（2006年）に開学しました。一層、高度でより豊かな知識を有し、また、人の苦しみを理解し、共感し、慈しむ“惻隱の心”を持つ薬剤師・研究者の育成に取り組んで参りました。



## 神奈川工科大学の取組み

### 1. ロボットプログラムスペシャル講座（教育月間イベント）

【タイトル】 ロボットプログラムスペシャル講座

【講師】 神奈川工科大学 創造工学部  
ホームエレクトロニクス開発学科  
教授 金井 徳兼



【開催日】 2019年10月19日（土）

【参加対象】 1限目 小学1年生～3年生 （導入編講座）（定員10名）  
2限目 小学4年生～高校生 （応用編講座）（定員10名）  
3限目 指導者教員向け （入門編講座）（定員10名）

【会場】 神奈川県立青少年センター（横浜市緑区紅葉ヶ丘9-1）

2020年度より小学校においてプログラミング教育が導入されることを受け、各地域では各授業科目と連携した取り組みや学習環境の整備が進められています。本講座は、児童を対象にロボットを活用したプログラミング体験学習と小学校教員向けプログラミング学習に関する研修を目的に開講しました。両講座ともレゴエデュケーション社製 レゴ マインドストーム EV3 と iPad を使用しました。



(\*1 プログラム画面)

小学生を対象とした学習体験では、コンピュータの役割、プログラム<sup>\*1</sup>とは何か？の理解後、iPad をもちいてアイコンを組み合わせる方式でプログラミングを体験しました。アイコンを並べた順番でロボットの動きが決まること、壁にぶつかったことを検出するセンサーを活用することで、ある条件の成立でロボットの

動作が変わること、さらに順序や条件などのプログラミングの基本処理を理解しました。子供たちは、自分が作ったらプログラムによってロボットの動作が変わること、プログラム内の命令順序や条件の設定を間違えるとやりたいことができなくなることから、ロボットの動きのあらすじを正しくつくり、プログラミングすること、論理的に考えることの大切さを体験しました。

教員向けの研修講座においては、プログラムの基本処理の理解後、LEGOマインドストーム<sup>\*2</sup>教材の授業使用前の準備、基本的な使用方法を体験しました。講師が実践した愛川町内の小学校でのプログラミング学習の事例をもとに、児童たちの取り組み、課題の設定などを含めて実習を通して研修を進めました。



(\*2 LEGO マインドストーム)

参加された先生方からは、小学校でのプログラミング教材の選定や学習環境の整備、具体的な教材の活用方法を実践的に体験され、講座内容をもとに今後の各学校でのプログラミング教育に取り組まれないとの声がありました。



(小学1年生～3年生)



(小学4年生～高校生)



(指導者教員)

## 2. その他、地域対象の主な教育イベント

神奈川工科大学では、理科好きの幼児・児童・生徒が増えることを目的に、地域の方を対象にした様々な教育イベントを開催しています。その中の3つを紹介します。いずれも、親御さんの見学は可能で、楽しく「ものづくり」を体験できます。

### (1) ものづくり夢体験

【開催日】2019年7月13日(土)、27日(土)

【参加対象】小学4・5・6年生

【会場】神奈川工科大学 KAIT工房

ものづくりを通して楽しさを、そして、作品の完成で達成感を味わおう！会場は本学のKAIT工房となり、体験コースは次の3つを用意しました。

- ①手作りで時計を作ろう
- ②コインケースを作ろう
- ③ソーラー飛行機&マイグラスを作ろう

当日は、総勢30名の児童がものづくりを体験しました。



### (2) ペットボトルロケット&ペーパー・プレーン競技大会

【開催日】2019年7月28日(日)

【参加対象】小学生、中学生、高校生

【会場】神奈川工科大学 KAIT スタジアム

みんなで大空に向かってロケットや飛行機を飛ばそう！

工学部機械工学科が主催するイベントで、「ペットボトル&ペーパー・プレーン競技大会」を開催しました。

会場は、大学の野球場となるKAITスタジアムで、当日は、小学生中心に12名が参加しました。

この日は、高校生を対象としたオープンキャンパスも同時開催しており、多くの高校生も見学していました。



### (3) クリスマスイvent「ブロックで未来都市をつくろう」

【開催日】2019年12月14日(土)

【参加対象】幼児年中～小学5年生

【会場】神奈川工科大学 第1食堂

理科好きっ子たちが、未来都市をブロックで表現！

親子で一緒に、明るい未来を思い浮かべながら、ブロックで未来都市を創作しました。

イベントは、午前の部と午後の部の2回実施し、各回75組、合計で保護者等を入れて400名以上の方が参加し、「ものづくり」の楽しさを体験してもらいました。



## 「NPO教育かながわフォーラム講演会」

演 題 古代の歴史散策 –ヤマトタケルの東征とその後–

【講演日時】2019年10月20日(日)

郷土史研究家 三嶽嘉保氏、古代のロマンを語る!



【場 所】伊勢原市シティプラザ及び伊勢原市周辺

【講 師】三嶽嘉保 (NPO 教育かながわフォーラム客員会員)

【主 催】NPO 教育かながわフォーラム

【後 援】神奈川県教育委員会、伊勢原市教育委員会、伊勢原市観光協会

【講演内容】

1. 「古事記」に依れば景行天皇の御代、倭建命による東征が行われた。その際、相模国造が偽って倭建命を火攻めにした。倭建命は草薙剣で枯れ草を薙ぎ向火を点けて、かろうじて脱出し相模国造を亡ぼした。この事件は「日本書紀」に依れば、静岡県焼津で起きたとされている。しかし、存亡をかけた戦いを相模国造が本拠地を離れ、わざわざ焼津まで遠征し戦ったとは到底考えられない。それでは相模国のどこで起こったのかは論争のあるところであるが、主に以下の理由により、伊勢原市の駒形山(伊勢原駅付近)で起こったと思われる。

(1) 伊勢原市の駒形山は、倭建命を祭神とする御嶽神社の分布(倭建命の足跡を示す)状況から見て、倭建命と相模国造が対決した場所と考えられる。



(2) 「駒形」の地名は事件の真相を示す場所の意である。

古くからある「やまとことば」の多くは、別の言葉の一部を組み合わせで出来ている。それ故、言の葉(言葉の端の意)と言う。この造語法は生活語などの基礎語に限らず、地名にも見られる。

”こまがた(駒形)” = “こと(事)” + ”まこと(真)” + ”がた(形見、跡形の形)”

(3) 弟橘姫の辞世の歌の「さねさし」とは、山(ここでは大山のこと)が美しく見える半島と云う意味であり、駒形山の近くに半島状の地形がある。



- さねさし 相模の小野に 燃ゆる火の 火中に立ちて 問ひし君はも (弟橘姫の辞世の歌)  
 “さねさし” = “さ(美称、小百合、小夜などの「さ」)” + “ね(峰)” + “さし(砂嘴、半島)”
- (4) その半島状の地に比較的大きな倭建命を祭神とする池端御嶽神社(池端の鎮守)がある。
  - (5) その地を池端と云い、対岸を沼目と云う。古事記の記述通り、大沼があったと考えられる。
  - (6) 冬の季節、「大山おろし」の風が吹くと半島状の地形は三方が海で火攻めに最適な地である。
2. 「古事記」に依れば、相模国造を滅ぼした地を焼遣と名付けたとある。だが、相模国には焼遣という地名が無かった為、「日本書紀」では静岡県焼津のこととしたものと思われる。しかし、伊勢原市には木津根という変わった地名がある。この地名は焼遣という不吉な名を嫌った地元の人々により、次のように変えられたものと考えられる。  
 “やきつ”(焼遣)⇒“やきつ”(焼遣)+“ね(根、湿った土地)”⇒“やきつね”⇒“きつね”  
 したがって、焼遣の地名は伊勢原市に現在も変化した形で残っていることになる。
3. この木津根の近くに丸島駒形神社がある。駒形神社は奥州に多く、坂上田村麻呂と蝦夷との戦いの場所に建てられたと考えられる。丸島駒形神社は、倭建命が勝利の記念として建てたもので、後に坂上田村麻呂がこの故事に倣い、蝦夷との戦いの都度、多くの駒形神社を建てていったものと考えられる。
  4. 伊勢原市には倭建命に因んだ「みたけ」、「東大竹」などの地名があり、その他状況証拠が多数ある。

### 【講演と散策の様子】

講演終了後、マイクロバスにて関連の史跡を散策した。



### 参加者の主な感想

- 伊勢原、秦野、平塚地区が古代の歴史があることをはじめて知りました。家に帰ってから資料をゆっくり読みたいと思います。
- 大変興味深く拝聴しました。前日よりさらに深く内容を理解しました。
- 三重県亀山の二つのヤマトタケルの古墳を見に行っただけで懐かしかった。
- ロマンを感じるご講演をいただきました。とても楽しく聞かせていただきました。
- 語意については漢字の字源しか学んでなかったのが、今回の和意(やまごころ)に感動しました。純粋な日本文化の発生ともいえるかと・・・
- 時間に限りがあり資料の途中で終わったのが残念です。後日、後半の講演もお願いしたい。
- 伊勢原地区の歴史を知り、地名等の由来を学び親近感を持つことができた。
- 関連する史跡を歩きながらヤマトタケルノミコトはこの道歩いたのかな、ここからあの大山を眺めたのかな、などと考えると歴史が大変身近に感じられました。教科書や歴史の書物に書かれている歴史だけが歴史ではないと実感しました。
- 今回の古代の歴史散策ですが、午前中伊勢原シティプラザでの講義は詳しく説明して頂き、また午後からの各地の散策についても引き続き講師三嶽さんの説明に感動いたしました。歴史については無頓着な私ですが、今回はいろいろと感動を受け今後は少し勉強しなくてはと勇気づけられました。今後もこういった企画をよろしく願います!!

## NPO 教育かながわフォーラムについて

私どものNPOは、退職した県立高校校長有志により、平成19年9月28日に設立され、現在、県立学校管理職経験者を中心に63名が会員として参加して、それぞれの得意分野を生かした活動を行っています。会員はいずれも長年の教育活動と学校経営に関わることで培った貴重な知識と経験を持っており、現職を離れた立場でその力を活かし、「かながわ人づくり推進ネットワーク」での活動をはじめ神奈川の教育を側面から支援する役割をささやかではありますが、果たしていると自負しております。

その主な活動は以下のとおりです。

### ○「神奈川らしいコミュニティ・スクール」学校運営協議会委員委嘱

- ・大和東高校、鶴見高校他10校 本会員活動中

### ○神奈川県福祉作文コンクール審査

- ・神奈川県社会福祉協議会・神奈川県共同募金会主催「神奈川県福祉作文コンクール」一次審査を担当

### ○小中学生対象体験型理科教室

- ・講師：渡辺克己会員
- ・川崎市立西梶ヶ谷小学校出前事業
- ・平塚市立城島小学校理科教室“稲の話”
- ・平塚市城島公民館まつり「子供理科教室」  
“顕微鏡を使った理科教室”



### ○中高年「健康づくり教室」

- ・講師：佐々木悦子会員
- ・平塚市大神公民館
- ・平塚城島公民館
- ・ひらつか市民活動センター



### ○教育相談会「高校ってどんなところ！大学ってどんなところ！」

- ・はだのこども館、
  - ・ひらつか市民活動センター
- 県立高校説明、大学・専門学校説明と個別相談  
15名の会員で運営、説明、個別相談を担当



問合せ先：NPO法人「NPO教育かながわフォーラム」

(<http://www.npo-ekf.com>)

## 「近代化遺産ツアー 1 浦賀地区」

### 実施概要

主催 横須賀市自然・人文博物館  
場所 横須賀市浦賀地区  
開催日時 9月27日(金) 13:00～15:30



▲ 解体される浦賀ドックの機関工場  
遠方に大きく映る建物が機関工場。  
令和元年度内に解体。

### 教育イベント概要

#### 【開催目的】

近代化遺産ツアーは、横須賀・三浦半島に所在する近代化遺産を歩いて巡るのみならず、近代化遺産を通して都市形成過程や街の特徴について参加者とともに考えることを目的とした行事です。

令和元年度の第1回目の近代化遺産ツアーは、「近代化遺産ツアー 1 浦賀地区」と題して、横須賀市浦賀地区の歴史遺産と都市形成を考える行事を企画しました。浦賀地区は、ペリー来航の地などとして近代史上でもよくとり上げられる地域ですが、同地区には明治30年代初頭に開業し、拡張が続けられた浦賀ドックと呼ばれる造船施設も所在してありました。この浦賀ドックは、民営によるものとしては国内でも早期の本格的なドライドックを備えた施設で、その跡地には明治から昭和時代にかけての歴史遺産が点在するなど、重要な歴史的施設として注目をされてきました。そのような中、令和元年度に機関工場などの戦前の工場建築の解体計画が同地を管理する住友重機械工業株式会社より発表され、新聞紙上などでも大きくとり上げられました。一方、令和2年(2020年)は浦賀奉行所が開設してから300周年にあたり、その前年の令和元年にも記念イベントなどが催されるなど、浦賀地区の歴史への関心が広まる機運が高まっていました。「近代化遺産ツアー 1 浦賀地区」は、そのような環境下で、各歴史的事項、各歴史遺産を個別にみるのではなく、総合的に捉え、都市形成過程と都市的特色を歩きながら体感的に理解できようにして、深い意味での楽しみを見出せるような行事とすることを目指して実施したものです。

## 【開催内容】

ここでは、行事の内容について、応募状況なども含め、見学当日のコースに沿って概略を説明します。

行事の定員は 30 名でしたが、申込者が定員を超過したため、抽選を実施しました。申込者数の多さは実績として評価されることが多いものの、学習したいという希望をもって往復はがきで応募してきた方々に選に漏れた旨の通知をするのは、何度行っても辛い業務となります。また、参加者は少なくとも充実した行事内容で良い効果をもたらすことができた実感できるイベントもあります。今回の「近代化遺産ツアー1 浦賀」は、応募者数が多い中でも各参加者からの反響の良い中身の深い行事であったと捉えています。

行事の集合場所は京浜急行の浦賀駅。昭和 5 年に湘南電気鉄道の駅として開設されたもので、駅を降りて目の前には浦賀ドックの敷地が広がっています。行事では、住友重機械工業株式会社、および横須賀市役所市街地整備推進課の多大なる協力のもと、解体が計画されている戦前の工場建築周辺、明治 31 年建造の赤れんがのドライドックなどを敷地内から見学しました。ただし、行事の趣旨は歴史遺産を単品として見学するものでは無かったため、敷地の入り口に至るまでの道のりでも歴史的風景を鑑賞し、都市形成過程を体感できるよう、見学ポイントに向かって歩き始める前に、問題意識が高められるような解説を行った。浦賀ドックの敷地には、かつて浦賀屯営が置かれ、近代的な軍隊制度での兵隊教育の始まりを伝える重要な地でもあったため、その遺構がどこかに存在しないか、参加者とともに探して歩けるよう、当時の地図も配布資料に加えた。

旧浦賀ドックの敷地内の見学時間は、参加者の反響をみて調整するよう計画したが、行事開始から 1 時間 30 分後には次の目的地へ向かうことのみ事前に決めておきました。浦賀ドック内では、通常、20 分から 30 分程度で回れるようなコースを巡ったものの、敷地内の戦前の工場建築が解体されるというニュースが流れていたこともあってか、見学時間は 1 時間弱に及び、次の見学ポイントへ向かいました。浦賀ドック内の見学時間が短い場合には、浦賀地区内の商店や住宅などの和風建築と街並みを巡る計画でしたが、これを割愛して、浦賀奉行所について考えるコースに進むこととしました。

浦賀奉行所について考えるコースの主要目的地は、浦賀奉行所跡の発掘現場でした。発掘現場に向かう前に、浦賀奉行所のイメージが湧いた方が現場見学への興味や楽しみが増すであろうと考え、現場へ向かう途中、浦賀文化センターに立ち寄り、浦賀奉行所を再現したジオラマの展示や絵地図の展示を見学した。その予備知識を元に浦賀奉行所跡の発掘現場に到着すると、参加者は目を輝かせながら熱心に見学し、また、横須賀市役所の発掘担当者の説明に聞き入っていました。後半は、浦賀ドックの見学内容を忘れてしまうのではないかと心配になるほど、ほとんどの参加者が見学に熱中していました。当初、浦賀ドックの敷地を出るあたりが、名残惜しくなるポイントではないかと推測していましたが、その最たるポイントの座は浦賀奉行所の発掘現場という結果となりました。市民の地元の歴史への興味関心も、動機付け如何によって大きく変わってくるであろうことを感じさせる行事でもありました。

## 図版の紹介



▲① 明治時代の浦賀ドック

(横須賀市自然・人文博物館蔵・若村家寄贈)



▲② 建造中の浦賀ドックの1号船渠

(横須賀市自然・人文博物館蔵・若村家寄贈)

▲① 軍艦を修理している様子。

▲② ドックの奥側は現在、浦賀地区の幹線道路になっている。ドック建設が浦賀地区の都市形成にも大きな影響を与えていたことが一目でわかる写真である。

## 「旧横浜正金銀行本店本館 建物見学会（第2回）」

### 実施概要

主催	神奈川県立歴史博物館
場所	神奈川県立歴史博物館
開催日時	9月23日（月・祝） ①10:30～12:00 ②14:00～15:30
参加者数	①25名 ②18名



### 教育イベント概要

#### 【開催趣旨・目的】

1904（明治37）年に完成し、当館の建物として保存活用している旧横浜正金銀行本店本館は、国の重要文化財・史跡に指定されており、横浜をそして日本を代表する近代建築の建物です。この建物見学会は、当館の歴史を見て聞いて知ることのできる貴重な機会であるとともに、参加者が学ぶ楽しさや発見する喜びを体験し、博物館を利用する楽しさを実感できること、当館に親しみをもち再度訪れたいと思うきっかけになることを期待して開催しています。

#### 【開催内容】

世界三大為替銀行としてその名を馳せた横浜正金銀行の本店本館は、横浜赤レンガ倉庫や日本橋の設計にも関わった、明治時代を代表する建築家の妻木頼黄（つまきよりなか）が設計したものです。外壁に石材を利用した煉瓦造りで、ネオ・バロック様式とされる威厳ある外観のほか、通常非公開の地下の金庫扉や1923（大正12）年の関東大震災で焼失し改修工事で復元された屋上ドーム、銀行の面影を伝える貴重な遺構などの見どころについて、当館学芸員が詳しく解説しながら案内しました。

#### 【実施（開催）時の会場の様子】

参加の皆さんは、学芸員の説明に耳を傾けながら、見学各所を見入ったり写真撮影をしていました。見学後のアンケートでは、参加者の満足度は高く、「満足」、「どちらかといえば満足」を合わせると100%でした。「普段入れない場所を見学できてとても楽しかった。」「すばらしい建造物をつぶさに見ることができた。」「予備知識なく参加し、すべてが新鮮で面白かった。」「丁寧な解説でわかりやすかった。」などの声が寄せられました。

## 開催時の様子



▲ 屋上での説明の様子



▲ ドームを飾る「ドルフィン」の装飾

## 担当者によるコメント

当館建物のシンボルである屋上ドーム、通称「エースのドーム」をはじめ、通常非公開の見どころをじっくり見学できることから、申込みが多く、毎年度4～5回開催している人気のある行事です。他の講座と比べて、当館への来館あるいは当館の行事参加が初めての方が多いたが特徴で、建物の魅力で参加者の関心をしっかり引き寄せることができるため、参加者の様子や反応を見ながら、担当学芸員として毎回楽しく解説しています。

## 実施団体の紹介

横浜のみなとみらい地区に隣接し、馬車道に面した当館は、コリント式の柱頭飾りをもつ大オーダート、正面に据えられた巨大なドームが特徴です。この屋上ドームについては、年2回の無料観覧日（文化の日・春分の日）にも公開し、建物見学会と同様、多くの来館者から好評を得ています。

神奈川県立歴史博物館は、「かながわの文化と歴史」をテーマとして総合的に扱う唯一の博物館です。原始・古代から現代までの資料を、人々の生活や信仰、政治経済の変化、外来文化の影響などの様々な歴史的視点で常設展示するとともに、学芸員の研究成果等をもとに特別展などを開催しています。

また、特別展にあわせた講演会等の各種講座、参加体験型行事の開催、館内ミュージアムライブラリーでのレファレンス等を通じた情報提供のほか、学校と連携し、学校からの展示見学学習の受入れや、学芸員が学校に出向いて講義する出張講座も積極的に実施しています。

このような学びの機会の充実に加え、先人が遺してくれた文化財や美術・工芸品等の貴重な文化的資産を、県民共有の資産として次世代へ引き継ぐ重大な責務も担い、適切な保存・管理に努めています。

展開している博物館の様々な活動については、当館ホームページで紹介するとともに、当館キャラクター「パンチの守(かみ)」がツイッターで配信しています。

今後も、幅広い年齢層の県民をはじめ、本県を訪れる多くの方々に魅了されるよう取り組んでいきます。



神奈川県立歴史博物館キャラクター「パンチの守」

ホームページ <http://ch.kanagawa-museum.jp/>  
ツイッター [https://twitter.com/kanagawa\\_museum](https://twitter.com/kanagawa_museum)

### (3) 教育イベント実施報告【かながわ人づくり推進ネットワーク参加団体（民間団体）】

#### 「私学・私塾フェア 2019 神奈川・東京私立中高進学相談会」

主 催：一般社団法人かながわ民間教育協会  
会 場：①横浜会場／パシフィコ横浜  
②小田原会場／川東タウンセンター  
開催日：①令和元年10月6日（日）10：00～16：00  
開催日：②令和元年10月6日（日）10：00～16：00  
内容等：

学習塾に通っている生徒を対象としている相談会と異なり、県下すべての小中学生・ご父母どなたでも参加できる相談会です。当日は、昨年と異なり天候に恵まれ、他の行事やイベントが気になるところでしたが、両会場とも例年を大幅に上回る入場者となりました。

（参加者層）

各会場に通える範囲の児童生徒、ご父母が参加されました。このところは子どもが友達と連れ立っての来場よりもご父母（ご家族）との参加が増えています。（参加者の様子）参加者は増えましたが、午前と午後とにうまく分散され、各私立ブースでの個別相談にも熱が入り、対応された私立の先生方とじっくりお話されている姿を多く見ることができました。

（アンケート等での感想）

志望校を決める判断のひとつにできた。学校での説明会と違い、自分の成績をみながら相談してもらった。私立高校の相談だけかと思っていたが、総合案内の場所で公立高校の説明も聞いて参考にできた。塾にいてないので、情報があまりなかったが、よくわからないのに丁寧に説明や相談をしてもらった。等



▲会場内：相談風景



▲横浜会場

「大学っておもしろい」  
漢方で入浴剤を作ろうコーナー

#### 神奈川県母子剣道大会・神奈川県東西対抗剣道大会

主 催：神奈川県剣道連盟  
会 場：神奈川県立武道館  
開催日：令和元年10月14日（月）  
内容等：

朝から昼過ぎまでが「母子剣道大会」です。他都道府県にはない種類の大会で、今年初めて業界新聞メディアの取材が入りました。子どもの健全な成長、母子の絆の深化、ひいては円満な家庭形成の一助となればとの思いも込めての開催です。熱戦が繰り広げられ、母が子を、子を母が応援して一所懸命に戦う様子は微笑ましいと同時に、観戦者がどの試合者にたいしても応援したくなるような真にあたたかい気分にさせるものがありました。

午後からは、県下各支部の精鋭が代表として対戦。まことに見ごたえのある試合ばかりでした。

大会の様子・雰囲気伝える情報公開をしています。下記のURL参照ください。

<http://kanagawa-kenren.com/archives/5141.html>



## (4) 教育イベント実施報告【市町村教育委員会・県教育委員会】

### 指定文化財等現地特別公開「泉澤寺の四天立像」

主 催：川崎市教育委員会事務局

会 場：泉澤寺

開催日：令和元年11月15日（金）～11月17日（日）

内容等：

川崎市中原区にある泉澤寺が所有する市重要歴史記念物「木造四天立像」と「泉澤寺本堂」を一般に公開しました。案内及び解説は、川崎市文化財ボランティアの皆様にご協力いただき、多くの方に普段見る機会の少ない文化財への理解を深めていただきました。



### 相模原市いじめ防止フォーラム

主 催：相模原市教育委員会・相模原市

会 場：相模原市立勤労者総合福祉センター  
（サン・エールさがみはら）

開催日：令和元年11月2日（土）

内容等：

(1) 出席者 208名

内訳：緑区各小中学校代表児童生徒、一般児童生徒、教職員、保護者、関係団体代表者、行政職員他  
うち、緑区代表児童生徒（中学校11校 12名 小学校26校 30名）計37校 42名

(2) 実施内容

①テーマ：

「お互いを認め合うより良い関係づくりに向けて」

②学校や地域における児童・生徒の取組発表

（旭中学校区：旭中学校・旭小学校・橋本小学校・宮上小学校）：  
各学校の取組及び小・中で連携した取組の発表

③グループ協議Ⅰ

協議テーマ：

「お互いを認め合うために、自分の学校で取り組んでいること、抱えている課題」

④グループ協議Ⅱ

・児童生徒によるグループ討議

協議テーマ

「お互いを認め合うために、自分たちができること」

「自分たちの取組を進めていくうえで、学校の先生や地域の大人の方をお願いしたいこと」

・学校関係者・保護者・市民によるグループ討議

協議テーマ

「子どもたちの発表を聞いて思ったこと、感じたこと」

「それぞれの立場で、子どもを認めより良い関係をつくるために何ができるか」

⑤講 評

相模原市子どものいじめに関する審議会副会長

東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科教授

岡田 守弘 氏



## 第41回 造形「さがみ風っ子展」

主催：さがみ風っ子文化祭運営委員会

共催：相模原市教育委員会、相模原市  
相模原市立小学校教育研究会  
相模原市立中学校教育研究会

会場：①女子美術大会会場  
②淵野辺公園会場

開催日：①令和元年10月25日（金）～11月2日（土）

③令和元年10月26日（土）～10月28日（月）

内容等：

児童・生徒の発表、作品を相互に鑑賞することや市民とのふれあいを図ることを目的として、今年で41回目の造形「さがみ風っ子展」の開催となりました。市立小・中学校で取り組まれた図画工作科・美術科の作品展示を淵野辺公園会場・女子美術会場で行いました。

参加者が楽しむことができる造形コーナーや、中学校美術部生徒によるワークショップ、相模原市立小中学校PTA連絡協議会が実施する「ふれあいコーナー」等の設置に加え、オリンピック・パラリンピックをテーマとした子どもたちの作品展示を行いました。



## 街頭紙芝居

主催：相模原市立図書館

会場：相模原市立図書館 正面入口前

開催日：令和元年10月27日（日）相

内容等：

自転車の荷台に固定した専用の舞台を用いて4作品を演じ、大人から子どもまで19名の参加者に楽しんでいただきました。手遊びや参加型の紙芝居を交えて盛り上げ、終了時にはスタッフ手製の「ぶんぶんゴマ」をプレゼントしたり、希望者に「おはなし会カレンダー」を配布するなど工夫をしました。

## 野田隆さん講演会「鉄道旅行の楽しみ方 ～わが鉄道人生を振り返って～」

主催：相模原市立図書館

会場：相模原市立図書館 大集会室

開催日：令和元年10月26日（土）

内容等：

鉄道旅行作家の野田隆さんより、旅や鉄道についての体験談や、旅行作家としての自身の創作活動についてお話を伺いました。質疑応答も活発に行われ、笑いが起こる場面もあり、終始和やかな雰囲気での講演会となりました。

## 秋の読書週間関連事業「おはなし会」

主 催：相模原市（相模大野図書館）

会 場：相模大野図書館内

開催日：令和元年11月4日（月・祝）

内容等：

絵本の読みきかせや、エプロンシアター（エプロンを舞台に見立て、ポケットから人形を出したり、エプロンにつけたりしながら演じる演劇）で子どもたちと親御さんに楽しい時間を過ごしてもらいました。（参加者：子ども14名 大人9名 計23名）

## 昼間の星の観望会

主 催：相模原市立博物館

会 場：相模原市立博物館 天体観測室

開催日：令和元年9月23日（月・祝）

内容等：

午前の部については終始曇天であったため、望遠鏡の紹介を行いました。午後の部は雲の切れ間から低空にある1等星が何とか見えたため、晴れプログラムで実施したものの、低空と強風の影響で天体が参加者にははっきりと見えないという状況が続きましたが、後半は晴れ間ができた天頂付近にある1等星へ導入を変更したところ、参加者もすぐに天体が確認できる観望になりました。

## 植物学教室「花の観察と植物画」

主 催：相模原市立博物館

会 場：相模原市立博物館 実習実験室

開催日：令和元年10月5日（土）

（10月12日予定の2回目は台風19号の接近により中止）

内容等：

プロの植物画家による指導と、学芸員による植物の構造や形態についての講義を交互に行い、植物画の初心者を受講生に大変好評でした。1回ごとに1枚の植物画を仕上げるため、台風の影響で2回目が中止になったものの、大きな混乱はありませんでした。



## 北条早雲没後500年連続講演会②「駿河時代の北条早雲～旗揚げの城 興国寺城を中心に～」

主 催：相模原市立博物館

会 場：相模原市立博物館 大会議室

開催日：令和元年10月6日（日）

内容等：

今年で没後500年となる戦国武将として名高い北条早雲の史料が市内残されていることに関連し開催した連続講演会。

2回目であった10月6日は北条早雲旗揚げの城とも呼べる沼津市の興国寺城の発掘担当者より、発掘成果のほか近年見直される北条早雲の出自、年齢、活動などについて講演いただきました。当日は116名の参加があり、「最新の研究成果を聞くことができた」など好評な意見が多かったです。

## 企画展「児童文学者 丘 修三」展

主 催：相模原市立博物館

会 場：吉野宿ふじや

開催日：令和元年10月26日（土）～12月1日（日）

内容等：

『ぼくのお姉さん』（偕成社）や小学校の教科書に掲載されている「紅鯉」などを著した市内在住の児童文学者・丘修三さんを著作や絵画などで紹介しました。

関連事業として作者ご本人に、朗読や創作動機など語っていただき、とても好評でした。



## 生きものミニサロン

主 催：相模原市立博物館

会 場：相模原市立博物館周辺の樹林地

開催日：令和元年10月26日（土）

内容等：

トウカエデやオオウバユリ、ガガイモなど、風散布によって種子を分散させる植物を紹介し、そのモデルを簡単な工作によって製作しました。



## 学芸員講話「アンゴラウサギと養兎組合ー中野森戸自治会資料を中心にー」

主 催：相模原市立博物館

会 場：相模原市立博物館 大会議室

開催日：令和元年10月27日（日）

内容等：

戦時中、子どももできる副業として奨励された兎の飼養、養兎の実態を緑区中野森戸自治会に残された森戸養兎組合の資料から明らかにしようとする取組です。参加者は20名と多くありませんでしたが、細かい資料の読み解きからその当時の地域の人々の動きが想定でき、より身近な地域の歴史と日本史全体の流れとの関わりが明らかになりました。



## 学習資料展～ちょっと昔の暮らし 第18回東京オリンピックの頃～

主 催：相模原市立博物館

会 場：相模原市立博物館 特別展示室

開催日：令和元年11月1日（金）～令和2年2月24日（月・祝）

内容等：

子どもたちに昔の暮らしを知ってもらおう「学習資料展」を開催しました。特に今回は東京2020オリンピックが開催されることにちなみ、1964年に開催された、第18回東京オリンピックの頃に使われていた生活道具を紹介しました。子どもだけでなく、大人の方も懐かしいものが見られたと好評でした。



## 第43回ひらつか民俗芸能まつり

主 催：ひらつか民俗芸能まつり実行委員会、平塚市教育委員会

会 場：平塚市中央公民館 大ホール

開催日：令和元年11月17日（日）

内容等：

（出演団体／演目）

神奈川県立高浜高等学校文楽部／寿式二人三番叟

湘南座／壺坂観音霊験記 山の段

相模人形芝居前鳥座（神奈川県指定無形民俗文化財）／絵本太功記 尼ヶ崎の段

眞土神社甚句保存会／眞土甚句

須賀甚句の会／須賀甚句

前鳥神社囃子太鼓保存会（平塚市指定重要無形文化財）／前鳥囃子



## 第42回藤沢公民館まつり

主 催：藤沢公民館まつり実行委員会

会 場：藤沢公民館

開催日：令和元年10月19日（土）、20日（日）

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第43回鶴沼地区公民館まつり

主 催：鶴沼地区公民館まつり実行委員会

会 場：鶴沼公民館

開催日：令和元年10月19日（土）、20日（日）

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第44回村岡ふれあいまつり

主 催：村岡ふれあいまつり実行委員会

会 場：村岡公民館

開催日：令和元年11月9日（土）、10日（日）

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第42回六会公民館ふるさとまつり

主 催：六会公民館ふるさとまつり実行委員会

会 場：六会公民館

開催日：令和元年10月19日（土）、20日（日）

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第42回片瀬地区ふれあいまつり

主 催：片瀬地区ふれあいまつり実行委員会

会 場：片瀬公民館

開催日：令和元年10月26日(土)、27日(日)

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第42回明治地区ふるさとまつり

主 催：明治地区ふるさとまつり実行委員会

会 場：明治公民館

開催日：令和元年10月19日(土)、20日(日)

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第42回御所見文化祭

主 催：御所見文化祭実行委員会

会 場：御所見公民館

開催日：令和元年10月19日(土)、20日(日)

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第46回遠藤地区文化祭

主 催：遠藤地区文化祭実行委員会

会 場：遠藤公民館

開催日：令和元年10月26日(土)、27日(日)

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第42回長後地区ふるさとまつり

主 催：長後地区ふるさとまつり実行委員会

会 場：長後公民館

開催日：令和元年10月19日(土)、20日(日)

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第42回辻堂公民館まつり

主 催：辻堂公民館まつり実行委員会

会 場：辻堂公民館

開催日：令和元年10月26日(土)、27日(日)

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露しました。

## 第 34 回湘南大庭ふるさとまつり

主 催：湘南大庭ふるさとまつり実行委員会

会 場：湘南大庭公民館

開催日：令和元年10月26日（土）、27日（日）

内容等：

さまざまなサークル・地域団体が日頃の活動の成果を披露した。

## 茅ヶ崎ゆかりの人物館後期企画展「開高家の人びと」

主 催：茅ヶ崎市

会 場：開高健記念館・茅ヶ崎ゆかりの人物館

開催日：令和元年10月12日（土）～令和2年3月29日（日）

内容等：

作家・開高健の家族人としての側面を、妻、娘の作品などから紹介。

## 絶筆『珠玉』の周辺

主 催：茅ヶ崎市

会 場：開高健記念館・茅ヶ崎ゆかりの人物館

開催日：令和元年10月12日（土）～令和2年3月29日（日）

内容等：

作家・開高健の最後の作品絶筆が完成するまでの軌跡を紹介。

## 『茅ヶ崎を彩った70人』市史講座

主 催：茅ヶ崎市

会 場：茅ヶ崎市役所

開催日：令和元年10月19日（土）、11月3日（日）

※10月12日（土）開催の講座を台風のため11月3日に延期しました。

内容等：

平成29年10月、茅ヶ崎市が市制施行70周年を迎えた記念に、茅ヶ崎にゆかりのあった人物70人余りを紹介した市史刊行物『茅ヶ崎を彩った70人』を刊行しました。その人物達を掘り下げた市史講座を、平成29年に続き第2弾として開催。本誌に掲載した人物だけではなく、彼らと関わった本誌未掲載の人々や、その時代背景も合わせて紹介したことで、分かりやすく楽しかったとの好評をいただきました。

## 茅ヶ崎市民文化祭

主 催：茅ヶ崎市

会 場：開高健記念館・茅ヶ崎ゆかりの人物館

開催日：令和元年10月3日（木）～12月1日（日）

内容等：

市民文化の向上と発展のため、10月から12月頭にかけて実施しました。令和元年度は、舞台・展示・文芸の3部門に分かれ、23のイベントを開催しました。

## 令和元年度読書週間第58回茅ヶ崎市児童・生徒ポスター展

主 催：茅ヶ崎市教育委員会

会 場：茅ヶ崎市立図書館

開催日：令和元年10月18日（金）～11月20日（水）

内容等：

10月27日～11月9日が読書週間であることから、市民の読書意欲の高揚と豊かな市民文化の向上を図ることを目的として実施しました。今年度は市内小学校13校55点、中学校6校19点の応募があり、前年より参加校は2校増えました。開催期間中多くの方に児童・生徒の力作をご覧いただきました。

## 文字・活字文化の日記念講演「物語作りの5年間～潮風吹くこの街で」

主 催：茅ヶ崎市教育委員会

会 場：茅ヶ崎市立図書館

開催日：令和元年10月27日（日）

内容等：

茅ヶ崎ゆかりの作家 鳴神響一氏による講演会。作家デビューから5年経ち、21作品を出版されたことをうけ、物語作りについてお話しいただきました。地元の作家であることに加え、Q&A形式で語られたお話は大変わかりやすく非常に好評でした。

## 南湖院講座「高田畊安のドイツ留学」

主 催：茅ヶ崎市

会 場：太陽の郷博修館

開催日：令和元年9月28日（土）

内容等：

茅ヶ崎海岸に結核療養所南湖院を設立した高田畊安は、1911（明治44）年8月、ヨーロッパに旅立ち、ベルリン大学で医学を学んだ。

本講座では、留学中に畊安がベルリンで交流した人たちについて、また、彼の手紙からわかる当時の南湖院と茅ヶ崎の姿について紹介しました。受講者は、高田畊安の様子やエピソードなど、興味深く受講していました。

## レクチャー「Shall we 能 (know) ?」

主 催：公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

会 場：茅ヶ崎市美術館

開催日：令和元年9月23日（月）

内容等：

講師に山井綱雄氏を迎え、日本の伝統芸能である能の歴史や所作について説明していただいた後、実際に能を舞っていただいた。能を知っている方から全く知らない人まで楽しんでいただいているように思います。

## ワークショップ「組上絵を組み上げてみて！」

主 催：公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

会 場：茅ヶ崎市美術館

開催日：令和元年10月6日（日）

内容等：

切り抜いて組み立てる浮世絵「組上絵」を作成しました。切って貼っての作業を繰り返しながら上手に仕上げていました。

## 企画展「江戸の遊び絵づくし」

主 催：公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

会 場：茅ヶ崎市美術館

開催日：令和元年9月7日（土）～11月4日（月・祝）

内容等：

江戸の絵師と版元が趣向を凝らして手掛けた、ユーモアとウィットにあふれた遊び絵の世界を取りあげ、謎解き、隠し絵、文字絵など7つの章から紹介しました。

## 文教大学公開講座

主 催：公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

会 場：茅ヶ崎市美術館

開催日：令和元年10月3日（木）～11月30日（土）

内容等：

10月から11月の期間中全5講で開講した。本年度は、「国際交流」をテーマに様々な視点での講座を行いました。

## 第17回厚木市郷土芸能まつり

主 催：厚木市教育委員会

共 催：厚木市郷土芸能保存会

後 援：神奈川県教育委員会、神奈川県民俗芸能保存協会

会 場：厚木市文化会館小ホール ※①、②両日とも

開催日：①郷土芸能発表会 令和元年10月27日（日）

②相模人形芝居特別公演 令和元年11月10日（日）

内容等：

「相模里神楽垣澤社中」や「三増獅子舞保存会（愛川町／特別出演）」など県や厚木市の無形民俗文化財に指定される団体が一堂に会する『郷土芸能発表会』、国指定重要無形民俗文化財の相模人形芝居「林座」と「長谷座」や人形浄瑠璃「あつぎひがし座」が出演する『相模人形芝居特別公演』を開催しました。



## 文化財一般公開

主 催：厚木市教育委員会  
会 場：厚木市林・王子地区  
（林神社、福伝寺、林大坂下地蔵堂、林自治会館）  
開催日：令和元年10月18日（金）～20日（日）  
内容等：

市指定天然記念物カゴノキ、林神社拝殿、福伝寺本堂・位牌堂・山門、弘安4年板碑、吉田朝右衛門の墓、民右衛門地蔵など林・王子地区の文化財を公開し、ボランティアガイド協会が解説を行いました。また、林・王子地区出土の土器等の展示、相模人形芝居 林座の人形や道具の展示、特別公演（三番叟）及び体験を行いました。



## 秋期企画展示「木とくらしーヤマの木、サトの木、鎮守の木ー」

主 催：厚木市教育委員会  
会 場：あつぎ郷土博物館  
開催日：令和元年9月21日（土）～11月17日（日）  
内容等：

郷土博物館が収集を進めてきた木製民俗資料、二人挽きロクロ、アジアのロクロ・挽物コレクション(中川重年コレクション)を中心とし、歴史的、民俗的な視点のほか、植物社会学的な視点を交えて紹介しました。



## 荻野運動公園開園 30 周年記念 2019 あつぎマラソン

主 催：厚木市・厚木市教育委員会  
会 場：厚木市荻野運動公園競技場を発着点とする周辺道路  
開催日：令和元年10月20日（日）  
内容等：

今年度 10 月に開園 30 周年を迎える荻野運動公園を祝して、2019 あつぎマラソンを開催。当日はオリンピックの高橋千恵美さんをゲストランナーとして迎え、また、本市と友好都市である秋田県横手市と沖縄県糸満市から代表選手団の皆様にも御参加をいただき、多くのランナーが健脚を競いました。3 kmの部、10 km及びハーフの部において参加者は 1400 人を超え、スポーツ交流の促進と生涯スポーツの推進を図ることができました。



## 座間市青少年フェスティバル（相模中学校区）

主 催：相模中学校区青少年フェスティバル実行委員会

会 場：座間市立相模中学校

開催日：令和元年10月26日（土）

内容等：

青少年の自立と連帯を目指し、文化・スポーツ活動等とおし、地域とのふれあいと、青少年相互の交流を深めるためのイベントを実施しました。（ハロウィン仮装体験、ざまりんと記念撮影会、餅つき、綿菓子、ポップコーン、麦茶）

## 座間市民芸術祭・座間市民音楽祭・児童文化展

主 催：座間市教育委員会

会 場：座間市立市民文化会館（ハーモニーホール座間）

開催日：令和元年10月3日（木）～11月24日（日）

内容等：

市民から募集した書道などの作品展示、詩吟など市内活動団体の舞台発表などの催しや将棋・囲碁などの競技をおよそ2か月に渡り行い13,000人以上の来場があった。また、児童文化展においては市内全小学校の図工絵画書道の作品の発表を座間市立市民文化会館小ホールにおいて開催し、6,000人以上の来場があった。

## 書庫開放日

主 催：綾瀬市立図書館

会 場：綾瀬市立図書館

開催日：令和元年10月11日（金）、17日（木）、26日（土）、11月8日（金）

内容等：

図書館内の普段入ることができない場所を、司書がご案内しました。書庫にある本を自由にご覧いただき、本の貸出を行いました。

## 第44回逗葉地区青少年音楽祭

主 催：葉山町教育委員会、逗子市教育委員会

会 場：葉山町福祉文化会館

開催日：令和元年10月27日（日）

内容等：

逗子市・葉山町に所在する中学校、高等学校の吹奏楽部が音楽を通じて交流を深め、音楽活動の振興と青少年の健全育成を図った。

- ・ 参 加：葉山中学校(41)、南郷中学校(30)、逗子中学校(32)、久木中学校(23)、  
沼間中学校(25)、逗子高等学校(37) 6団体188名
- ・ 観客数：約550人

## 第53回葉山町文化祭

主 催：葉山町文化協会、葉山町教育委員会

会 場：葉山町福祉文化会館

開催日：令和元年10月31日（木）～11月25日（月）

内容等：

葉山町文化協会に加盟している全ての団体が一同に集まり、ステージ・展示部門共に町福祉文化会館等を会場として一年間の成果を発表した。姉妹都市である草津町の文化団体協議会の作品の展示も行った。

## 昭和のスポーツレガシー展 ～日本陸上界の発展に貢献した澁谷壽光さんの足跡～

主 催：「昭和のスポーツレガシー展」開催実行委員会

共 催：松田町教育委員会

会 場：松田町民文化センター

開催日：令和元年10月13日（日）～20日（日）

内容等：

来場者の多くは町内の方であったが、中には県外からの来場者もありました。また、陸上競技関係者や箱根駅伝の愛好者、市民ランナーなども来館し、パネルや遺品等、時間をかけて熱心に観覧していました。

なお、ギャラリートークを開催し、展示内容についての詳しいお話を伺うことができ、理解が深まりました。



## 令和元年度松田町文化祭

主 催：松田町教育委員会

共 催：松田町教育委員会

会 場：松田町民文化センター

開催日：令和元年10月26日（土）、27日（日）

内容等：

当町の社会教育の推進を目的とし、毎年開催している。今年度は、「新しい時代へ文化をつなぐ」をテーマに、舞台展示発表のほか、体験や販売を実施しました。約700名の方の来場があり、賑わいました。町民の文化活動の成果を発表する場となり、町民の文化芸術意識の向上に繋がりました。



## 令和元年度第 15 回真鶴町民音楽祭

主 催：真鶴町教育委員会

会 場：真鶴町民センター

開催日：令和元年10月26日(土)

内容等：

町内の音楽に関するサークル・グループをはじめ、入学前の幼児、小学生、中学生等が一堂に会し、音楽発表や音楽を楽しむ活動をとおして、音楽を愛好する心情を育むことを目的に6団体と幼児交流プログラムの7つの演目を実施しました。約 180 人の観客は各団体の発表を熱心に聞き入り、大きな拍手を送っていました。



## 第 22 回 産業教育フェア

主 催：神奈川県産業教育フェア実行委員会

(神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、  
川崎市教育委員会、神奈川県産業教育振興連合会、  
神奈川県農業教育振興会、神奈川県工業教育振興会、  
神奈川県商業教育振興会、神奈川県水産教育振興会)

共 催：横須賀市教育委員会

会 場：横浜新都市ビル (そごう横浜店)

開催日：令和元年11月9日(土)、10日(日)

内容等：

今年度も新都市ホール9階の3会場で実施しました。

例年好評であるシビルプラザの農業、商業による販売、水産による透明骨格標本の販売などが行われました。センタープラザでの体験コーナーでは工業の体験も実施され、多くの方々に専門高校をPRすることができました。



## (5) 教育イベント実施報告【県立学校】

### TECH(テック) LAB(ラボ) 2019

主 催：県立神奈川工業高等学校

会 場：県立神奈川工業高等学校

開催日：令和元年9月28日(土)、10月19日(土)、11月16日(土)

※6月22日(土)、7月13日(土)、8月17日(土)、  
9月14日(土)も実施

内容等：

中学生に工業高校での専門的で魅力的な学習内容を知ってもらうための体験講座である。3年目となるこのイベントは年間を通して実施され、今年度はのべ167名の中学生が参加しました。講座は2時間程度で、プログラミングやロボット制御、測量やデッサンなどの講座を実施しています。保護者も同行可で終了後に校内見学もできます。



### 公開講座「緑高セミナー」

主 催：県立横浜緑ヶ丘高等学校

会 場：県立横浜緑ヶ丘高等学校

開催日：(第1回) 令和元年10月19日(土)、(第2回) 令和元年11月17日(日)

内容等：

本校では高い学力と幅広い教養を育成するための取り組みとして卒業生に講師を依頼し、地域の方々にも参加を呼びかけて公開講座を実施しています。第1回目は「金融リテラシーの向上とライフデザインの描き方」というテーマで家計管理とライフプランニングやFin Techのことについて金融庁に勤務されている方に講演をしていただきました。第2回目は「経験が自分を作る!」というテーマで、新聞社支局長として勤務されている方に講演をしていただきました。人生においてどんな選択にも外れはないと自分を信じた経験を基に、講座に参加された方々が新たな情報や物事をさまざまな角度から捉えることの重要性を理解し視野を広げることができる内容でした。

### アジアスポーツフェスタ

主 催：モン・スポ(NPO法人バレーボール・モントリオール会)

会 場：県立横浜国際高等学校

開催日：令和元年10月27日(日)

内容等：

今年で12回目を迎え、毎年、横浜国際高校を会場として開催されています。モントリオールオリンピックのバレーボールゴールドメダリストを始めとするモン・スポの方々、横浜国際高校の生徒やPTA、関東学院大学や東海大学の学生、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)など沢山のボランティアの方々、そして様々な分野の企業の後援の協力により、インドシナの難民の方々と、地域の方々が一緒に様々なスポーツを楽しみながら交流を行うスポーツイベントです。当日は、体育館に総勢約200人以上の参加者が集い、東海大学の体操部による準備体操から会場は多いに盛り上がりました。参加者はバレーボールの試合や障害物リレーなどにさまざまな立場、国籍を超えたチームで臨み、一日中楽しみました。また、難民として日本にやってきた経緯、日本での苦労や喜びを参加者から聞くワークもあり、相互理解を一層深めることができました。さらに昼食は、ラオス料理の炊き出しがあり、そこでも交流が広がり、多文化共生社会における深い相互理解と交流が行われた一日となりました。



## バンダパンダまつり

主 催：県立上溝南高等学校、JR 橋本駅

会 場：県立上溝南高等学校

開催日：令和元年10月5日（土）

内容等：

平成 25 年度から実施している JR 橋本駅と本校がコラボレーションした祭りで、PTA、地元自治会、上溝地区の安全・安心まちづくり推進協議会などと協力の下、文化部の舞台公演や出店で地域を盛り上げました。スクールキャラクターのバンダパンダや地域のゆるキャラも祭りを彩りました。最後には本校の音楽科教員と音楽選択の生徒が作成したテーマソング「僕らの番田」を手話とともに歌い、農業体験で収穫した里芋などを来場者に配布をして祭りを締めくくりました。



## リフレッシュダンス

主 催：県立座間高等学校

会 場：県立座間高等学校 武道室

開催日：令和元年10月6日（日）、13日（日）、20日（日）

11月9日（土）、16日（土）

計 5 回

内容等：

ヒップホップダンス経験のある中学生、子育て中の 30 代、50 代の本校保護者、エアロビクスを続けておられる 70 代の方などの参加があり、交流しながらリズムにのってダンスをしました。音楽に合わせて軽快に動けるように受講生が互いに教え合う場面も見られました。講座の後半 30 分は創作舞踊部員とともに、ダンスの基本を学びます。

「普段あまり動かさない体を動かし、動かし方や健康情報を教えてもらい勉強になった。」「高校生との接触が新鮮だった。」などの感想がありました。継続して参加される方があり、繰り返しの内容にならないよう、新たな体験ができるように工夫しています。



## 国際フェスタ 2019

主 催：県立座間総合高等学校

会 場：県立座間総合高等学校

開催日：令和元年11月14日（木）

内容等：

今年度は開校 10 周年記念事業の式典を 13 時から行いました。

そのあと、14 時よりフェスタを開始。演目は式典のため例年より少なかったが、式典の参加者の方もいたこともあり、出演者・スタッフの頑張りで大いに盛り上がりました。



## ダンスでリセット ～みんなで楽しむコミュニティライフ～

主 催：県立三ツ境養護学校

会 場：県立三ツ境養護学校 体育館

開催日：令和元年9月15日(日)、10月20日(日)、11月17日(日)、12月15日(日) 計4回

内容等：

卒業生だけでなく、地域在住のダンスをしたい方26名が参加した。先生の振付けを見ながらたっぷり2時間音楽に合わせて動きを練習し、毎回1曲を完成させた。参加者からのリクエスト曲のダンスもあり、グループ毎の発表では、お互いのパフォーマンスを拍手でたたえるなど、終始暖かい雰囲気の中での活動となった。こころもからだもリフレッシュし、それぞれが達成感を味わえる楽しい時間となった。

## 第41回 造形「さがみ風っ子展」

【再掲】

主 催：さがみ風っ子文化祭運営委員会

共 催：相模原市教育委員会、相模原市

相模原市立小学校教育研究会

相模原市立中学校教育研究会

会 場：①女子美術大会会場

②淵野辺公園会場

開催日：①令和元年10月25日(金)～11月2日(土)

③令和元年10月26日(土)～10月28日(月)

内容等：

市立小・中学校、幼稚園・特別支援学校・近隣高校の図工・美術の作品を展示する、日本一のスケールを誇る野外の大作品展です。相模原養護学校は招待校として小学部2年生、5年生、中学部の児童生徒の作品を出展しました。今年度もたくさんの方に児童生徒の作品を鑑賞していただくことができました。



▲相模原養護学校作品展示

## 麻溝公民館文化展

主 催：麻溝公民館

会 場：麻溝公民館

開催日：令和元年11月2日(土)、3日(日)

内容等：

施設が新しくなって初めての麻溝公民館での文化展が開かれ、地域の方々の様々な作品が展示されました。今回初めて模擬店やお茶会も開かれ、700人を超える来場者がありました。相模原養護学校は中学部作業班と高等部職業班の製品や活動の様子がわかるポスターを出展しました。地域の学校として、子どもたちの活動を知っていただく機会になりました。



▲相模原養護学校展示

## かながわ教育月間中に教育イベントを実施した県立学校一覧

### ◆高等学校 110 校

神奈川県立工業高等学校、横浜翠嵐高等学校、城郷高等学校、横浜平沼高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校、横浜立野高等学校、横浜清陵高等学校、横浜国際高等学校、光陵高等学校、商工高等学校、希望ヶ丘高等学校、旭高等学校、磯子工業高等学校、磯子高等学校、氷取沢高等学校、釜利谷高等学校、港北高等学校、新羽高等学校、霧が丘高等学校、市ヶ尾高等学校、田奈高等学校、元石川高等学校、川和高等学校、新栄高等学校、舞岡高等学校、横浜桜陽高等学校、上矢部高等学校、柏陽高等学校、金井高等学校、横浜栄高等学校、松陽高等学校、横浜緑園高等学校、横浜修悠館高等学校、瀬谷西高等学校、川崎高等学校、大師高等学校、川崎工科高等学校、新城高等学校、住吉高等学校、川崎北高等学校、多摩高等学校、向の岡工業高等学校、百合丘高等学校、生田東高等学校、菅高等学校、麻生総合高等学校、麻生高等学校、横須賀高等学校、横須賀工業高等学校、海洋科学高等学校、追浜高等学校、横須賀明光高等学校・大楠高等学校、平塚江南高等学校、平塚農業高等学校、高浜高等学校、平塚商業高等学校、平塚湘風高等学校、鎌倉高等学校、七里ガ浜高等学校、大船高等学校、深沢高等学校、湘南高等学校、藤沢西高等学校、藤沢工科高等学校、小田原高等学校、小田原東高等学校、小田原城北工業高等学校、茅ヶ崎高等学校、茅ヶ崎北陵高等学校、鶴嶺高等学校、茅ヶ崎西浜高等学校、逗子高等学校、逗葉高等学校、相原高等学校、上溝高等学校、相模原高等学校、上溝南高等学校、上鶴間高等学校、橋本高等学校、相模原青陵高等学校、相模原総合高等学校、弥栄高等学校、相模田名高等学校、秦野高等学校、秦野総合高等学校、厚木高等学校、厚木東高等学校、厚木商業高等学校、厚木北高等学校、厚木清南高等学校、厚木西高等学校、大和高等学校、大和南高等学校、大和東高等学校、伊志田高等学校、海老名高等学校、有馬高等学校、座間高等学校、座間総合高等学校、相模向陽館高等学校、足柄高等学校、綾瀬高等学校、綾瀬西高等学校、寒川高等学校、大磯高等学校、二宮高等学校、吉田島高等学校、愛川高等学校、城山高等学校、津久井高等学校

### ◆中等教育学校 2 校

平塚中等教育学校、相模原中等教育学校

### ◆特別支援学校 23 校

平塚盲学校、平塚ろう学校、鶴見養護学校、横浜南養護学校、保土ヶ谷養護学校、三ツ境養護学校、中原養護学校、高津養護学校、武山養護学校、平塚養護学校、鎌倉養護学校、藤沢養護学校、茅ヶ崎養護学校、相模原養護学校、秦野養護学校、伊勢原養護学校、座間養護学校、津久井養護学校、麻生養護学校、岩戸養護学校、相模原中央支援学校、横浜ひなたやま支援学校、えびな支援学校

## 事業概要

家庭や地域の教育力の充実にむけ、従業員の家庭教育に係わる活動を支援・推進している家庭教育に理解のある事業者を「協力事業者」として、神奈川県教育委員会と協定を結び、家庭の教育力の向上を図っていく事業です。



### ■協力事業者に取り組んでいただくこと

家庭教育啓発資料の配布

家庭教育を支援、推進する取組みの実施

(例 ノー残業デーの設定、子ども参観日、工場見学など)

### ■県教育委員会の支援

県ホームページで、協力事業者を紹介

広報用ポスター等に協力事業者名を掲載し、PR

## 家庭教育通信「の・ぼ・り・ざ・か」

神奈川県教育委員会では家庭教育通信「の・ぼ・り・ざ・か」を作成し協力事業者の取組みや新しい協力事業者等を紹介しています。

以下に、最新号(第15号)に掲載している協力事業者の取組みを紹介します。

### 取組例①

#### 日本ゼオン株式会社 川崎工場

##### 取組内容

- 従業員や地域住民の家族を対象とした工場見学を受入れ、ものづくりの現場を知って頂くことと、家族・子どもとふれあう時間の場を提供する。
- ソフトボール大会、納涼祭等の実施により家族・子どもと触れ合う場を提供する。

日本ゼオン株式会社川崎工場では、工場見学を中心とした教育活動を進めており、採用実績のある高等専門学校向けの工場見学やインターンシップ受け入れ、地域の学童保育所児童を対象とした化学実験教室などを開催してきました。化学実験教室では、工場で生産された合成ゴムを原料とした実験をおこなっており、今後も化学工場をもっと身近に感じていただけるよう取り組んで参ります。



## 取組例②

### NSK マイクロプレジジョン株式会社 藤沢工場

#### 夏休み親子工場見学会

開催日時：2019年8月21日(水) 14:00～16:10

開催イベント：実験教室、工場見学、長谷川貴彦氏（ワールドヨーヨーコンテスト AP 部門 2002/2005/2011 世界チャンピオン）のパフォーマンス など

NSK マイクロプレジジョン藤沢工場で、NSK グループの社員の子供も及び父母を招待し「夏休み親子工場見学会」を実施しました。今年で10回目となる本イベントには、小学生から中学生までの子供と父母、29名が参加し、実験教室や工場見学ツアーなどを楽しみました。実験教室では、摩擦の大小を体験する実験やベアリングの組立体験を行いました。工場見学では、普段は見ることのできない精密ベアリングの製造現場を見学しました。



## 取組例③

### 住友電気工業株式会社 横浜製作所

#### 稲荷祭

開催日時：2019年4月7日(日) 8:30～13:00

開催イベント：駅伝大会、バンド演奏、防災体験(起震車・煙体験)、車展示会、こども工作室・絵画展、ふれあい動物園、射的・わたあめ・クレープ・唐揚げ他模擬店、稲荷神社(所内)参拝

住友電工横浜製作所では、4月第1日曜日に創業記念祭として開催している「稲荷祭」に社員の家族や地域の皆さまをご招待しています。参加者は年々増えており、現在は約1,700名の参加規模となっています。メインイベントは駅伝大会ですが、その時期は製作所内の桜が満開となり、社員食堂を開放してお花見気分楽しんでいただいています。ほかにも夏祭りなど地域の皆さまとの交流を大切にして、地域とともに発展を続けていきます。



家庭教育通信「の・ぼ・り・ざ・か」（第11号から）や本取組みの詳細は神奈川県教育委員会のホームページに掲載されていますので、詳細は以下のホームページをご覧ください。

URL) <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/gt2/jigyosyarenkei.html>

## Ⅲ. かながわ人づくり推進ネットワークについて



ホームページトップ（令和2年2月現在）(<http://www.kanagawa-hitozukuri.com/>)

### 概要

#### ネットワークとは

学校や家庭、地域などで、「かながわ教育ビジョン」を様々な主体と共有し、実効性のある人づくりを県民総ぐるみで進めていくためのネットワークとして形成していくものです。

- \* 平成20年11月8日「第5回かながわ人づくりフォーラム」において、結成式を挙行
- \* これを機に、またスローガンの「コラボ」(協働)からも、「かながわ人づくりフォーラム」の名称を翌年度から「かながわ人づくりコラボ」に変更

#### 目的

「人づくり」にかかわる様々な主体が、教育ビジョンを共有し、その役割と責任を自覚して、協働・連携して実効性のある取組みを進める必要があります。

教育ビジョンを推進するためのネットワークを形成し、それぞれ主体ごとの取組みを尊重しながら、継続的な協議を行い、次代を担う人づくりに向け、一体的な取組みを進めます。



スローガン 「みんなで進めよう かながわ人づくりコラボ」

## ロゴマーク

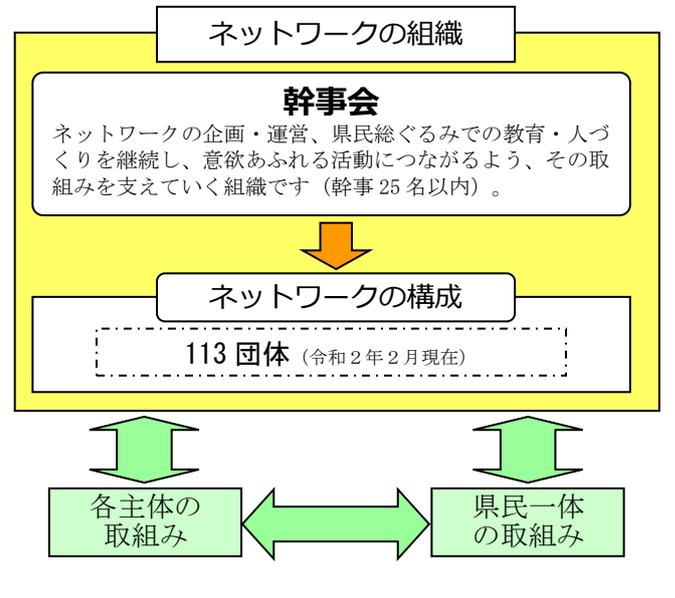
## 重点的な活動目標

- 1 子どもたちの教育や学校を支援する取組みを充実させます。
- 2 県民一人ひとりの生涯にわたる自分づくりを応援する取組を進めます。
- 3 企業・NPOとの協働・連携を強め、地域の教育力のパワーアップに資するネットワークづくりを展開します。

## ネットワークの事業

- ① 県民をはじめ、教育・人づくり関係者への情報提供・情報交流の促進
- ② ホームページを効果的に活用した、様々な主体の考え方や実践の紹介
- ③ 定期開催の「かながわ人づくりコラボ」の開催にかかる積極的な運営・支援
- ④ 県民総ぐるみでの教育・人づくりの推進にかかる運動の展開
- ⑤ かながわ教育ビジョンの推進にかかる進捗状況の点検・評価への取組み

## 組織



## 参加団体

各団体は、かながわ教育ビジョンに基づき、「未来を拓く・創る・生きる 人間力あふれる かながわの人づくり」をめざして、「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」の育成を、それぞれの立場と役割を自覚しながら取り組みます。各団体の取組みを尊重し、無理のない、継続的な取組みを進めます。

### 教育委員会関係

神奈川県教育委員会 神奈川県市町村教育長会連合会 各市町村教育委員会(33団体) 神奈川県市町村教育委員会連合会

### 学校教育関係

神奈川県立小学校校長会 神奈川県立中学校校長会 神奈川県立小学校教頭会 神奈川県立中学校教頭会 神奈川県立学校校長会  
 神奈川県立学校副校長会 神奈川県立学校全日制教頭会 神奈川県立高等学校定時制通信制教頭会 神奈川県立特別支援学校校長会  
 公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会 一般社団法人神奈川県専修学校各種学校協会  
 かながわ教職員組合連合 神奈川県高等学校教職員組合 外語ビジネス専門学校 横浜国立大学 鎌倉女子大学 神奈川工科大学昭和音楽大学  
 横浜薬科大学 北里大学

### 保護者・社会教育・教育支援関係

神奈川県PTA協議会 神奈川県立高等学校PTA連合会 横浜市PTA連絡協議会 川崎市PTA連絡協議会  
 相模原市立小中学校PTA連絡協議会 神奈川県社会教育委員連絡協議会 神奈川県公民館連絡協議会 NPO法人きょういく応援団  
 NPO法人心とからだの研究会 フェーズII 一般社団法人かながわ民間教育協会 早稲田大学茅ヶ崎稲門会CSR  
 NPO教育かながわフォーラム 神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会 神奈川県特別支援学校知的障害教育校PTA連合会  
 一般社団法人日本新聞協会 公益財団法人放送番組センター JAXA宇宙教育センター 神奈川県NIE推進協議会

### スポーツ・医療・福祉・国際交流関係

公益財団法人神奈川県体育協会 公益財団法人小田原市体育協会 藤沢市体育協会 平塚市体育協会 海老名市体育協会 綾瀬市体育協会  
 開成町体育協会 神奈川県中学校体育連盟 神奈川県高等学校体育連盟 神奈川県学校体育研究連合会 一般社団法人神奈川県サッカー協会  
 神奈川県剣道連盟 神奈川県スケート連盟 神奈川県卓球協会 神奈川県バドミントン協会 公益社団法人神奈川県医師会  
 NPO法人神奈川県介護支援専門員協会 公益財団法人かながわ国際交流財団 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会

### 経済団体・企業関係

一般社団法人神奈川県経済同友会 一般社団法人神奈川県経営者協会 神奈川県商工会連合会 一般社団法人神奈川県商工会議所連合会  
 神奈川県中小企業団体中央会 株式会社たしる薬品 株式会社ササモライフアシスト 株式会社 玄 公益社団法人横浜貿易協会  
 株式会社富士通ワイエフシー 株式会社リコー厚木事業所 株式会社リコーテクノロジーセンター 神奈川県司法書士会 J.A.神奈川県中央会

### マスコミ関係

神奈川新聞社 株式会社テレビ神奈川 横浜ケーブルビジョン株式会社 横浜エフエム放送株式会社

ホームページにてより詳しい情報を発信しています。ぜひご覧ください。

かながわ人づくり推進ネットワーク

検索

ネットワークへのご参加とご協力をお願いします！

令和2年3月 発行

発行団体 : かながわ人づくり推進ネットワーク

編集協力 : 人づくり推進ネットワーク協力団体

(NPO法人教育かながわフォーラム〈主査〉、  
県立学校長会議、神奈川県公立中学校長会、  
神奈川県専修学校各種学校協会、  
(公財)神奈川県体育協会、神奈川工科大学、鎌倉女子大学)